

5 専門科目の履修

5.1 新設・履修上の注意・休講・廃止科目等について

以下、すべて2単位です。履修年次は学部-(109～113)専門科目およびコース関連科目表を参照してください。

5.1.1 2019 年度新設科目

人間環境特論（健康×まちづくり＝スマート・ウェルネス・シティの挑戦）
 人間環境特論（市民参加×まちづくり～地域コンサルティングの現場から）
 人間環境特論（都市政策への挑戦～湘南からのメッセージ～）
 人間環境特論（社会学理論と現代社会）
 人間環境特論（ジェンダーと家族の社会学）
 人間環境特論（地域資源社会論）
 プログラム修了論文 ※RSPのみ履修可能
 Global Society 1
 Global Society 2

5.1.2 履修上の注意

表の右側の「旧科目名」の単位をすでに修得している場合は、左側の新名称の科目を履修することはできません。なお、「旧科目名」での開講はありません。

2012 年度からの新科目名	2011 年度までの旧科目名
国際環境法	国際環境法Ⅰ
比較環境法	国際環境法Ⅱ
地方自治論	地方自治論Ⅰ
自治体環境政策論Ⅰ	地方自治論Ⅱ
国際環境政策Ⅰ	国際環境政策
都市環境論Ⅰ・Ⅱ	都市環境論
ファシリテーション論	人間環境特論(ファシリテーションの基礎)
比較演劇論Ⅰ・Ⅱ	比較演劇論
ヨーロッパ環境史論Ⅰ	人間環境特論(ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ)
ヨーロッパ環境史論Ⅱ	人間環境特論(ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ)
日本美術史論	日本美術の系譜
環境科学Ⅲ	人間環境特論(天然資源の科学)
大気と社会Ⅰ	人間環境特論(気流と社会環境Ⅰ)
大気と社会Ⅱ	人間環境特論(気流と社会環境Ⅱ)
自然環境政策論Ⅰ	自然環境政策論
環境社会論Ⅲ	人間環境特論(環境と地域の持続性を考える)
廃棄物・リサイクル論	リサイクル論
食と農の環境学Ⅱ	人間環境特論(農と食から考える現代社会)
統計とデータ分析	統計概論

2013 年度からの新科目名	2011 年度までの旧科目名
環境表象論 I	環境表象論

2015 年度からの新科目名	2014 年度までの旧科目名
人間環境セミナー	人間環境セミナー I
人間環境セミナー	人間環境セミナー II

2016 年度からの新科目名	2015 年度までの旧科目名
サイエンスカフェ I	自然環境科学の基礎 (化学)
サイエンスカフェ II	自然環境科学の基礎 (生物学)
サイエンスカフェ III	自然環境科学の基礎 (生態学)
サイエンスカフェ IV	自然環境科学の基礎 (物理学)
ローカルスタディーズ I	地域環境ケーススタディ I
ローカルスタディーズ II	地域環境ケーススタディ II
アーティストと社会貢献	人間環境特論 (アーティストと社会貢献)

2017 年度からの新科目名	2016 年度までの旧科目名
現代思想と人間 I	人間環境特論 (西洋社会思想史 I)
現代思想と人間 II	人間環境特論 (西洋社会思想史 II)

「人間環境セミナー」「人間環境セミナー I」「人間環境セミナー II」は重複履修できる科目のため、これらを修得済みでも「人間環境セミナー」を履修することは可能です。

5.1.3 2019 年度休講科目

「テーマ別英語 2」「自治体環境政策論 I」「自治体環境政策論 II」「地域形成論」「仏教思想」「生命の現在と倫理」「Japanese Society and Sustainability 3」「Social Development and Sustainability 1」「Social Development and Sustainability 2」「Area Studies」「Co-creative Workshop B I」「Co-creative Workshop B II」

5.1.4 廃止科目

「インターンシップ」

5.2 専門科目の種類と履修上の注意

人間環境学部の専門科目はリテラシー科目と展開科目から構成されています(RSP は異なります)。

5.2.1 リテラシー科目

RSP 以外

学部の専門カリキュラムへの導入科目にあたり、1 年次全員必修の「フレッシュマン科目」と、語学や情報処理の技能を高めるための「スキルアップ科目」から成ります。

(1) フレッシュマン科目 (2012 年度以降入学者)

以下の、2 科目 4 単位を 2 年次までに修得していないと、3 年生に進級できません。

1) 「人間環境学への招待」

1 年次春学期必修科目(2 単位)です。水曜日 1 限と水曜日 2 限の 2 クラスに分かれます。指定されたクラスに出席してください。

皆さんが 4 年間学ぶ「人間環境学」という 21 世紀の新しい学びの内容と魅力について、オムニバス形式(多くの先生の講義を結びつないで構成する形)により紹介してゆきます。各回の担当者は、展開科目の 5 つの科目群(法律・政治、経済・経営、社会・地域、人文科学、自然科学)の各分野からバランスよく選ばれ、文理融合の学際的な例題によって、この学部のカリキュラムの特色「コース制」の意味も分かるよう構成されます。

2) 「基礎演習」

1 年次秋学期必修科目(2 単位)です。約 20 クラス開設されます。希望調査期間前に、受講の詳細について掲示等によりお知らせします。大学でアカデミックに学び、研究するための基礎的な心得やスキルを、演習を通じて身につける少人数クラスの授業です。

(2) スキルアップ科目

以下の中から、2 単位以上を、3 年次までに修得していないと 4 年生に進級できません。

英語科目として、ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目とは別に、「アクティブ語学」(「英語Ⅰ～Ⅳ」)、「テーマ別英語」(「テーマ別英語 1～4」)、情報処理科目として、「情報処理基礎」「ネットワークとマルチメディア」「統計とデータ分析」が設けられています。

RSP

学部の専門カリキュラムへの導入科目から成ります。科目により、以下のとおり履修上の注意事項があるため確認の上、履修してください。

1) 「人間環境学への招待」

春学期の水曜日 1 限と水曜日 2 限の 2 クラスに分かれます。指定されたクラス(時間割表参照)に出席してください。

皆さんが 4 年間学ぶ「人間環境学」という 21 世紀の新しい学びの内容と魅力について、オムニバス形式(多くの先生の講義を結びつないで構成する形)により紹介してゆきます。各回の担当者は、展開科目の 5 つの科目群(法律・政治、経済・経営、社会・地域、人文科学、自然科学)の各分野からバランスよく選ばれ、文理融合の学際的な例題によって、この学部のカリキュラ

ムの特色「コース制」の意味も分かるよう構成されます。

2) 「基礎演習」

秋学期に約 20 クラス開設されます。希望調査期間前（春学期中）に、受講の詳細について掲示等によりお知らせします。大学でアカデミックに学び、研究するための基礎的な心得やスキルを、演習を通じて身につける少人数クラスの授業です。

5.2.2 展開科目

RSP 以外

上記「リテラシー科目」以外の専門科目を「展開科目」と呼んでいます。2013 年度以前入学者には、それぞれの種類ごとに必要な単位数を設けていませんが、2014 年度以降入学者は、卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から 6 単位以上修得する必要があります。さらに、2016 年度以降入学者は、自身で選択したコースごとに、コース共通科目から 10 単位以上かつ、コースコア科目から 20 単位以上の修得が必要です（SSI 生はコース共通科目 8 単位以上、コースコア科目 12 単位以上）。詳しくは、「7 コース制」を参照してください。

RSP

上記「リテラシー科目」以外の専門科目を「展開科目」と呼んでいます。卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から 2 単位以上修得する必要があります。

全 共通**(1) 5つの分野に関連する科目群**

5つの分野とは、法律・政治、経済・経営、社会・地域、人文科学、自然科学です。これらは20世紀までの学問の分野です。従来の学問領域による分類をしているのは、環境問題にとりくむためには、既存のさまざまな学問・専門分野の成果を結集し、枠を超えて融合させた知見や発想、協働が必要ながよく分かるためです。言い換えれば、上記の5分野の特定の分野だけを偏って学習しても、本学部での学びとしては有効ではありません。皆さんは5分野の枠をこえてさまざまな授業をとっていくことになります。

5分野の科目群は、各入学年度のカリキュラム構成図ページの表の通り「基幹科目」「政策科目」に区分されます。「政策科目」は文字通り、持続可能な社会構築のための「環境政策」について考察する科目です。「政策」には、政府や自治体に限らず、企業・NPO・NGO・市民活動団体などの取り組みも含まれます。その「政策科目」を学ぼううえで、基礎的な知識や視点などを学べるように設けているのが「基幹科目」です。したがって、政策科目によっては、「この基幹科目をまず履修したうえで学ぶことが望ましい」という場合があります。履修の順序に制約はありませんが、シラバスや担当の先生の助言を参考に、履修計画を立てると有効です。

(2) 環境総合科目

前述の5分野のどこかに分類することが適さない、領域融合的な科目などです。

(3) 人間環境セミナー

「人間環境セミナー」は、セメスターごとにテーマを設定して人間環境学の総合化を図り、また、企業、業界関係者、中央政府・地方政府(自治体)・その他、NPO/NGO、学識経験者、文化関係者など社会の第一線で活躍するさまざまな専門家を講師に招いて講義をしていただくものです。経験にもとづく知見をうかがうことで視野を広げることができます。

この科目は複数回の履修ができます。

2014 年度以降入学者は、卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から 6 単位以上修得する必要があります。RSP の場合、「人間環境セミナー」は社会連携探求科目(選択必修 2 単位以上)になります。

過去に開催された人間環境セミナーのテーマは学部 HP から確認することができます。

<http://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/gakka/jinkanseminar/index.html>



今後の予定については決定次第掲示します。開講曜日時限は通常、土曜日 3 限(春学期・秋学期ともに)と、平日いずれかの 6 限(秋学期のみ)となっています。計画的に履修してください。

(4) フィールドスタディ

「フィールドスタディ」（現地実習）は、講義や文献から学んだ事柄を直接現地に赴いて検証するために設けられています。私たちがおかれている社会環境や自然環境を肌で感じ、さまざまな体験を通じて自らの問題意識を高めていくことを目的としています。自然保護、まちづくり、農業、地域福祉、国際協力、エネルギーなど多様なコースを実施しています。各コースとも事前・事後学習、報告会などを行い、現地での学習をより実りあるものにしています。

在学中に 8 単位まで修得できます。1 セメスターに 2 つ以上のコースを履修すること、さらに、同一コースを 2 回履修することは、原則として出来ません。その年度の実施コースと募集内容は 4 月に掲示板でお知らせします。

2014 年度以降入学者は、卒業までに「フィールドスタディ」「人間環境セミナー」「キャリアチャレンジ」から 6 単位以上修得する必要があります。RSP の場合、「フィールドスタディ」は社会連携探求科目（選択必修 2 単位以上）になります。

1) フィールドスタディの概要

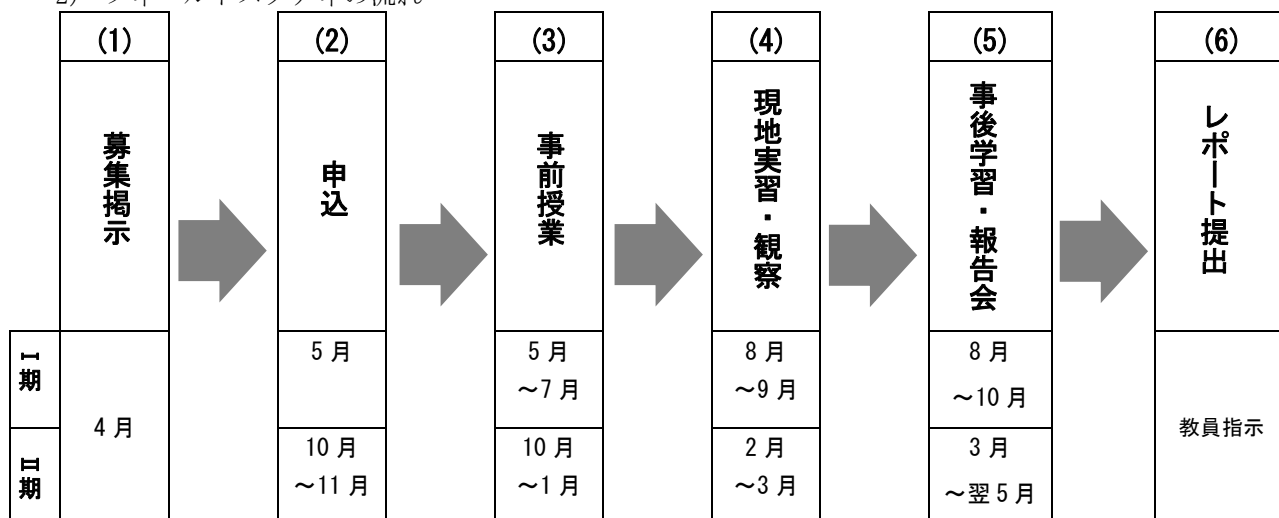
履修年次 1～4 年次

単 位 1 コース 2 単位で卒業までに 4 コース (8 単位) まで修得可能

開講時期 主にⅠ期 8～9 月 Ⅱ期 2～3 月

履修登録 Ⅰ期→当年度の秋学期 Ⅱ期→翌年度の春学期

2) フィールドスタディの流れ



3) 注意事項

単位の修得には事前授業・現地実習・観察、事後学習・報告会への参加のほか、履修登録期に在学をしている必要があります（休学等の場合単位は修得できません）。

(5) キャリアチャレンジ

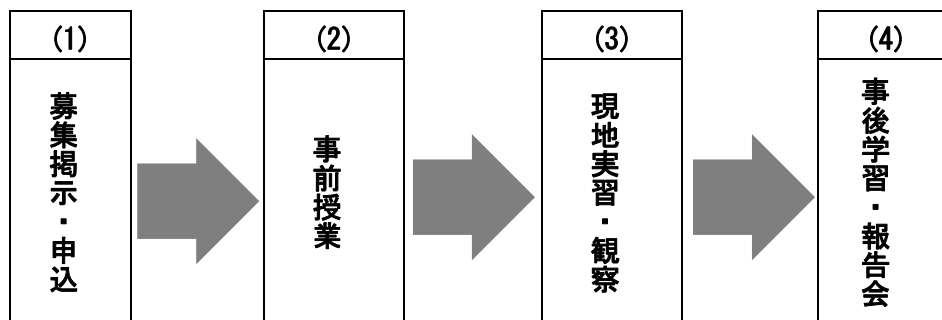
人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO 等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目です。自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。

「フィールドスタディ」は、原則として現地実習は4日（国内）ですが、「キャリアチャレンジ」の研修期間は、7日～14日（土日を含む）です。また「フィールドスタディ」は、原則として教員が引率しますが、本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏季休暇中と春季休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。対象学年は2年生以上ですが、受け入れ団体により対象学年が異なります（1年次の春季休暇中に現地実習が可能な場合もあります）。

また、自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から、「選択必修科目」（6単位）の対象科目になりました（選択必修科目対象者は2014年度以降入学生）。RSPの場合、「キャリアチャレンジ」は社会連携探求科目（選択必修2単位以上）になります。

1) キャリアチャレンジの流れ



募集と派遣時期は受け入れ先によって異なります。揭示をよく確認してぜひ積極的に参加してください。

2) 注意事項

単位の修得には事前授業・現地実習・観察、事後学習・報告会への参加のほか、履修登録期に在学をしている必要があります（休学等の場合単位は修得できません）。

(6) 研究会

いわゆるゼミナールで、担当教員の掲げるテーマや専門分野に応じて、少人数クラスで開講されます。参加は2年生から可能です。研究会 A(通称 A ゼミ)と研究会 B(通称 B ゼミ)の2種類があります。

募集・選考は前年度の秋学期に行われます。研究会は必修ではありませんが、「コース制(RSPを除く)」にもとづく学習・研究の要であり、自分の勉強の「居場所」になるといえる、教員や学友との交流の場です。募集に先立って行われるゼミ生主体の相談会や、募集期間のオープンゼミ(ゼミ見学者受け入れ)なども参考に、ぜひ積極的に参加してください。

タイプ	開講期間	備考
研究会 A (A ゼミ)	通年(4 単位)	・原則として同じゼミで4年次まで継続履修する。 ・研究会によっては、4年次に研究会修了論文の作成を課す。(研究会修了論文は秋学期科目として2単位修得できる) ・2つ以上の研究会 A の重複履修は不可。 ・研究会 B との重複受講については、担当教員の指示による。
研究会 B (B ゼミ)	ゼミにより異なる。 通年(4 単位) 春学期のみ(2 単位) 秋学期のみ(2 単位)	・原則として年度毎に受講者を募集。連続受講は義務付けられていない。 ・半期の研究会 B の中には、資格試験対策や、語学のレベルアップを目的としたゼミもある。

(7) 研究会修了論文

「研究会修了論文」は、研究会 A を原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた卒業論文に該当します。履修の手順は以下のとおりです。

a) 履修対象者

「研究会 A」の受講者のみ

b) 履修登録と指導教員

履修登録は4年次の秋学期に2単位の選択科目として履修登録することができます。

指導教員は、学生が所属する研究会 A の担当教員です。

※履修登録をしないと、単位として認定することはできないので注意してください。

c) 研究会修了論文の要件

研究会修了論文の分量要件は400字×40枚以上(1万6000字以上で図表等を含む)です。様式は研究会 A の担当教員が指示しますが、必ず指定の表紙(学部窓口にて配付)をつけ、論文のタイトル、氏名、学生証番号、学年・クラス、指導教員名を明示してください。

d) 提出先と時期

研究会修了論文は指導教員に提出します。提出する時期については、研究会 A の授業において教員が指示します。おおよそ12月から1月の間で、研究会により提出する時期が異なります。

(8) コース修了論文： RSP 以外 **全**プログラム修了論文： **RSP**

研究会 A に所属していなくとも（研究会に全く所属していない方、研究会 B のみの方）が、専任教員の指導のもとで修了論文を書くことができる科目です。

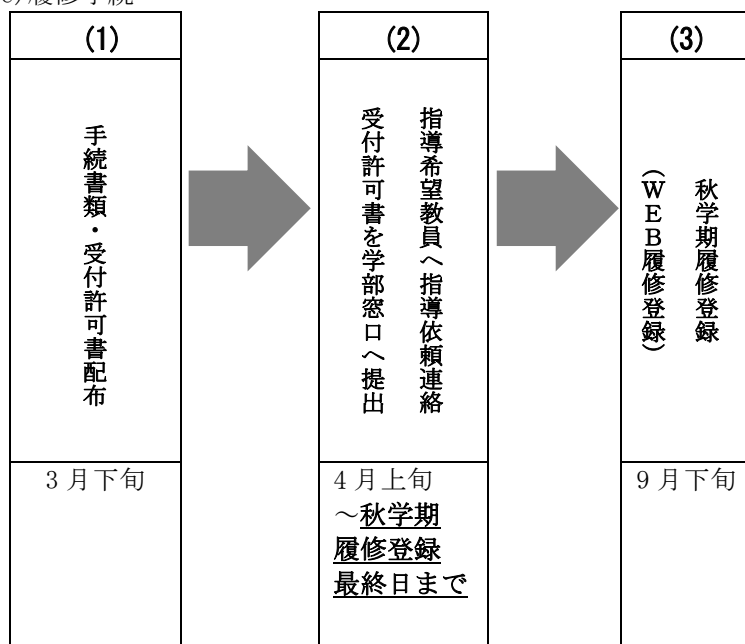
a) 対象

研究会 B のみに所属している 4 年生 または 研究会に所属していない 4 年生

b) 履修時期及び単位

4 年次秋学期 2 単位

c) 履修手続



※教員によっては、指導期間を長くとる場合があります。

※5 月末日までに指導希望教員へのアポイントメントを取ることを強く推奨します。

c) 論文の要件

400 字×40 枚以上（1 万 6000 字以上で図表等を含む）

(9) 人間環境特論

「人間環境学」に関連する世界の潮流をふまえて、アンテナショップ的に、1～2 年間臨時開設する科目です。環境問題は国内外で刻々と新しい動きがあり、新鮮なテーマにつねに敏感であることが、時代の要請に応えることになるのです。この科目は、サブタイトルが異なるものであれば複数回の履修ができます。ただし、一度単位を修得した同一サブタイトルの科目は、次年度以降に重複して履修登録はできません。

(10) SCOPE 科目

2016 年 9 月から人間環境学部英語学位プログラム「SCOPE」(Sustainability Co-creation Programme) が開設されました。法政大学ではグローバルオープン科目や ERP (英語強化プログラム) など、英語で学ぶ科目がありますが、人間環境学部の学生のみ参加できる英語で学ぶ科目が SCOPE 科目です。

現在、SCOPE 科目には、Co-creative Workshop A I / A II / B I / B II、SCOPE Seminar、Field Workshop があります。修得上限は 12 単位までとなります。(RSP の場合は、SCOPE 科目が自由科目 (修得上限 30 単位)) になります。なお、これらの科目には一定程度の英語能力を前提としますので、履修の可否については事前に担当教員に相談をしてください。

(11) 自由科目

「他学部公開科目」「ERP 科目」「ESOP 科目」「グローバルオープン科目」「短期語学研修」「国際インターンシップ」「国際ボランティア」が該当します。卒業までに 20 単位を上限として修得可能です。RSP の場合、上記に「SCOPE 科目」を加えたうえで 30 単位を上限として修得可能です。なお、セメスター・年間の履修登録上限単位数の対象外となる科目もあります。

1) 他学部公開科目

受講資格は 2～4 年次生です。詳細は、Web 掲示板を参照してください。

2) ESOP 科目

1 年次～4 年次まで受講できます。海外から受け入れた交換留学生用の、日本という国に関わるテーマをとりあげた英語の講義・ゼミですが、留学生以外の学部学生も、このカリキュラムを受講することにより、年間 4 単位まで「自由科目」単位として認定されます。開講科目等、詳しくはグローバル教育センター事務部国際交流課 (窓口：大内山校舎 2 階、E-mail: ic@hosei.ac.jp、電話番号：03-3264-9402) に問い合わせてください。

3) ERP 科目

1 年次～4 年次まで受講できます。英語による少人数 (10 名～20 名)・双方向授業を授業形態として実施されている、英語 4 技能 (listening, speaking, reading, writing) の養成とその統合を目的とした授業です。卒業所要単位として単位修得することを希望する場合、履修登録時に窓口にて申請すると自由科目として履修できます。開講科目等、詳しくはグローバル教育センター事務部グローバルラーニング課 (窓口：大内山校舎 2 階、E-mail: global@hosei.ac.jp、電話番号：03-3264-4088) に問い合わせてください。

※市ヶ谷リベラルアーツセンター主催グローバルオープン科目の単位を修得した場合、2017 年度以降入学者は「ILAC 科目」、2016 年度以前入学者は「市ヶ谷基礎科目」として認定されます。